



地上絵には二つのタイプがあることがわかっている。一つは「線タイプ」と呼ばれるもので、巨大なものが多く、ほとんどが一筆書きで描かれ、地上絵の大部分を占めている。発見当初は宇宙人が空からデザインしたようなまことしやかな説が流れていたが、実は台地の土壌の構成から作画はさほど難しくないことが判明している。台地の表面には酸化作用で黒く変色した礫があり、この礫の直下には白い砂の層が存在している。

最後に残った疑問はなぜ地上絵が描かれたのかである。線タイプ地上絵が暦の代わりに利用されてきた、文字のない時代に儀式を含む決まりごと・ルールを記録した、雨乞いなどの神事のために描画されたなど、いろいろな目的が推定されている。最近の解析によると、線タイプ地上絵が聖地や神殿を結んでいることが判明したことから、神聖な場所への巡礼ガイドの目的であったのではないかと坂井教授は推測している。古代文化の未知の世界には常に人を惹きつけてやまない魅力が溢れている。退官後は、古代歴史探訪ツアーに行きたいと願っている。